

## 大会玄関口での 安全・安心、おもてなし

多くの観戦客が競技会場に足を運ぶ東京2020大会では、輸送・交通対策や玄関口となる最寄駅などの安全対策、おもてなしは重要なテーマであった。コロナ禍において時々刻々と情勢が変わる中、有観客での開催が実現した静岡県。そこには、地域一体となった取組の積み重ねがあった。

### 一般市民への影響を最小限に抑えた円滑な輸送を実現

東京2020大会に係る観戦客や関係者の輸送は、大会組織委員会が主体となって実施。県は、安全かつ効率的で信頼性が高く、遅れない輸送サービスの提供と、一般市民に与える影響を最小限に抑える協力体制を取った。特に混雑等が懸念される箇所の道路整備、伊豆中央道路民間料金のブース増設、伊豆スカイラインの全区間・全車種の無料化等を実施し、混雑緩和および円滑な輸送の実現につなげた。



### コロナ禍での開催。 地域一体となった医療救護体制

大会の安全・安心な開催の根幹には、感染症対策を含む医療救護体制があった。県は、各会場に管轄保健所（東部、御殿場）を中心とした「オリンピック・パラリンピック医療救護体制等調整会議」を設置。保健所や地域局、市町、消防、地元医師会、医療機関等を構成員とし、地域医療への影響を最小限にする対応の検討を行った。大会延期後の医療救護体制は、新型コロナウイルス感染症対策と不可分であり、地域の医療機関や消防本部等関係者が一体となって体制整備に取り組んだ結果、安全・安心な大会の県内開催を実現することができた。



### 会場最寄駅でのおもてなし、 安全対策の実施

競技会場の最寄駅（修善寺駅・伊東駅・御殿場駅）からシャトルバス乗降場までの徒歩ルート「ラストマイル」は、大会組織委員会が主体となって運営し、県と市は、運営への協力や観戦客へのおもてなしを担当した。暑さ対策として、ミスト・扇風機の設置、保冷剤や飲料・塩飴の配布等を実施。安全対策の一環として、県警と協力して監視カメラを設置し、雑踏警備に寄与する取組も行った。また、大規模地震や豪雨災害などへの備えとして、備蓄食料と飲料水の確保を実施。観戦客の輸送拠点を擁する市町と大会組織委員会と連携して、万全の体制を整えた。



### 機運醸成、祝祭感を 統一デザインで演出した都市装飾

大会前の機運醸成、大会中の祝祭感演出、大会後の次世代への継承のため、大会組織委員会が定めた統一デザインによる「シティレッシング（都市装飾）」を、県と市町が協力して行った。ラストマイルは紅一色。乗換駅や沿道、商店街など、機運醸成を目的とした装飾は、紅・藍・藤・松葉・桜の5色を使い、街中を彩った。



東京2020大会は、県内の児童・生徒に様々な成長の機会を与えた。「オリンピック・パラリンピック教育」「学校連携観戦プログラム」「運営体験プログラム」を通じて、学び・感動・体験は、子どもたちの将来と共に、静岡県の未来も明るくする。

### オリンピック・パラリンピックから学ぶ スポーツの価値、挑戦、努力、自主性

静岡県教育委員会は、スポーツ庁の委託を受けて県内の小・中・高等学校および特別支援学校をオリンピック・パラリンピック教育推進校に指定。オリンピック・パラリンピックを通して、知・徳・体の調和の取れた、自ら進んで平和な社会の実現に貢献できる人間育成等を目的とした教育を行った。2017年度に県内8校で始まった事業は、2020年度に51校まで広がり、スポーツの魅力や価値と共に、努力をすること、夢や自信を持つことの大切さを学ぶ機会となった。



#### 主な取組

- ・オリンピック・パラリンピアン、現役スポーツ選手や指導者らを招いての講演会や実技指導
- ・大会の意義や歴史についての調べ学習
- ・パラリンピアンを題材とした道徳の授業

#### 児童・生徒の声

- ・できることに目を向けて、自分も努力し続けたい（小学生）
- ・諦めない大切さを学び、志望校合格にもう一度挑戦しようという気持ちになった（高校生）



### 子どもたちに感動の機会を。 6日間で1,240人が参加

次世代を担う子どもたちに、東京2020大会が一生の財産として心に残るように、学校連携観戦プログラムは、オリンピック・パラリンピック教育の集大成でもあった。オリンピック競技には、6日間で延べ51校1,240人が参加。参加した生徒からは多くの感動の声が届き、選手からも「子どもたちの応援が嬉しかった、力になった」と喜びの声があった。パラリンピック競技の観戦は県内の緊急事態宣言発令に伴い中止となった。

#### Student Voice

- ・間近で世界レベルのレースを見て感動しました
- ・一言で言うと、最高！映像と全く違い臨場感が凄く、速さの次元が違う

### 県内の高校生・大学生が、 見て、聞いて、体験&体感

未来を担う若者が東京2020大会に参画することでスポーツの価値や魅力を学び、「スポーツを支える人」を育てることを目的に実施した「運営体験プログラム」。県内の高校生、大学生計43人が参加し、「応援アンバサダー」として活動した。プログラムは、オリエンテーション、自転車競技関係、ボランティア関係、本番観戦・体験、報告会の5本柱。学生たちは、「見て」「聞いて」「体験・体感」したことをSNS等で情報発信し、大会を盛り上げた。



#### Student Voice

- ・裏方として活動する人たちの重要性を知り、一つのことを多くの人で成し遂げるのは凄いなと思った
- ・選手や関係者の方が、メダル獲得や大会成功に向けて必死に取り組む姿を見て、今後もこうした大会やボランティアに関わっていきなりたいと思った

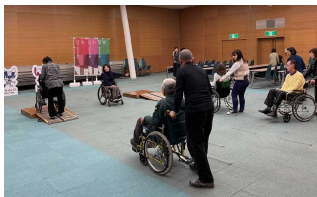


## 大会を支えた 「シティキャスト静岡」の 活躍

県では全国に先駆けて、東京2020大会開催時に静岡県を訪れる観戦客や観光客に「おもてなし」をする都市ボランティアを募集した。都市ボランティアの主な活動内容は、観戦客がスムーズに会場に到達できる交通案内や、静岡県を存分に楽しんでもらうための観光案内を行うこと。大会本番には各種研修を重ねた都市ボランティア「シティキャスト静岡」たちが、ラストマイルなどで活躍し、地元開催を盛り上げた。

### 東京2020大会に向けた 多様な研修

都市ボランティアが活動をイメージできるよう、より実践的な研修を展開。車いすや白杖を使用して障がい者のサポート方法を学ぶバリアフリー研修、救急の基礎知識およびAEDの使用法を学ぶ応急救護研修、外国語研修などの実技研修を行った。また、全日本ロード選手権等の自転車レースや、ロード、マウンテンバイクのテストイベントの現場で、本番を想定した研修を行ったほか、東京マラソンでのボランティア活動も経験した。



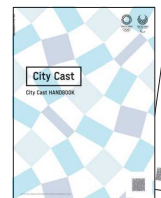
バリアフリー研修



外国語研修



応急救護研修



シティキャストハンドブック



### READY STEADY TOKYO

2019年の7月と10月、東京2020大会のプレ大会としてテストイベント(READY STEADY TOKYO)が行われた。テストイベントに合わせて、会場の最寄り駅に都市ボランティアを配置し、大会本番時における活動のシミュレーションを実施。リーダー希望者を中心に参加者を募集し、2日間で計65人が本番さながらの活動を実施した。

自転車(ロード)  
開催日/2019年7月21日(日)  
活動場所/JR御殿場駅



活動内容/シャトルバス乗り場誘導、テストイベント関連チラシ配布、観光案内、施設案内

自転車(マウンテンバイク)  
開催日/2019年10月6日(日)  
活動場所/修善寺駅・JR伊東駅



### 大会延期を受けて

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、東京2020大会が1年延期となり、都市ボランティアの参加者数が最低必要人数を下回ったことから、各市町に募集チラシを配架し、大学や企業への訪問説明を行うなどして追加募集を行った。延期決定後の研修では、新型コロナウイルス感染対策のため、対面とオンライン形式を併用。新たに「感染症対策」、「熱中症対策」の項目を追加し、大会本番活動時の不安を軽減する取組も行った。



### 大会期間中の活躍

オリンピック期間中には延べ1,467人が活動。競技会場の最寄り駅、主要乗換駅などで静岡県を訪れる観戦客をもてなした。活動内容は観光・交通案内、シャトルバスの誘導・案内、高齢者・障がい者の移動サポートなど。パラリンピックは無観客での開催となったため、現地での活動は行わず、代替の活動を実施した。

### Volunteer Voice

一生に一度になるであろうオリンピックでのボランティア経験は悔しくもあり、この経験を様々な生に活かせると思う楽しみです。

色々な人に声掛けができ、ボランティア仲間も増えたことで、社会とのつながりを感じることができました。



### 活動実績

配置場所	活動実績(延べ人数)
JR御殿場駅	140
JR伊東駅	232
伊豆箱根鉄道修善寺駅	339
JR三島駅	573
JR沼津駅	183
	計1,467



### シティキャスト静岡 サクスパーティー

開催日/2022年1月9日(日)  
場所/伊豆ペドローム

多くの研修を重ね実現したボランティア活動の締めくくりとして「シティキャスト静岡サクスパーティー」が行われた。川勝知事から参加証の贈呈、東京2020大会自転車競技出場選手との交流・記念撮影などが行われ、会場内は選手や都市ボランティアの笑顔に包まれた。応募から4年、都市ボランティアたちはその長い道のりを終えた。



### 「ふじのくにスポーツ ボランティア」の設立

オリンピック・パラリンピックの開催成果を一過性で終わらせず、レガシーとして継承するため、静岡県は2022年1月、都市ボランティアや聖火リレーで活躍したボランティア経験者を中心に、「ふじのくにスポーツボランティア」を組織化した。各種スポーツ大会、イベントなどで活動できるよう調整するとともに、ボランティア同士の交流や研修の場を設けるなど、ネットワーク化にも取り組んでいく。





# サイクリストの憧れを呼ぶ聖地 “ふじのくに”へ

静岡県は、東京2020大会自転車競技の県内開催を契機に、国内外のサイクリストの憧れを呼ぶ聖地“ふじのくに”の実現に向けた取組を2016年から開始した。目指す聖地の姿とは。その取組内容は。そして、大会レガシー創出への歩みは今後も続いていく。



## 官民一体となった聖地づくり。目指すは4つの柱の目標達成

2016年から東京2020大会のレガシー創出に向けて走り出した静岡県は、2018年4月、県、市町、民間団体が一体となって取組を進めるため、川勝知事を議長とする「サイクルスポーツの聖地創造会議」を設立した。目指す姿は「国内外から多くのサイクリスト、自転車競技者が訪れ、交流する地域。住民の多くが自転車に親しみ、サイクリストを理解し、温かくもてなす地域社会」だ。2019年3月には、ハードとソフトの施策を総合的に進める指針となる「静岡県自転車活用

推進計画」を策定。「競技振興」「サイクルツーリズム」「裾野拡大・安全」「走行空間整備」の4つの分野ごとに目標を定め、施策を推進している。さらに県は、スポーツを通じた地域活性化を推進するため、2022年1月に「静岡県スポーツコミッション推進本部」を設置。自転車競技に限らず、官民一体となったスポーツの聖地づくりへの取組を通じて、関係人口の拡大、地域の魅力創造、県民の生活の質(QOL)向上を目指していく。

### 競技振興

自転車競技が行われた県内3会場を舞台にした国際大会の開催など「自転車競技のアジア中心地への成長」、ジュニア世代の発掘・育成事業など「自転車アスリート育成体制の構築」を推進。



### サイクルツーリズム

国内外から多くのサイクリストが静岡県を訪れ、快適・安全・安心にサイクリングを楽しんでもらうように、ハイシクルピットの設置など、宿泊・観光施設等と連携した受け入れ態勢を構築。



出典：静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会

### 裾野拡大・安全

安全・快適に誰もが自転車に親しみ地域社会の形成を目標に、県内サイクリングチームと連携した交通安全イベントやタンデム自転車の練習会などを実施。新しい生活様式として自転車通勤を促進するなどの裾野拡大にも着手。



### 走行空間整備

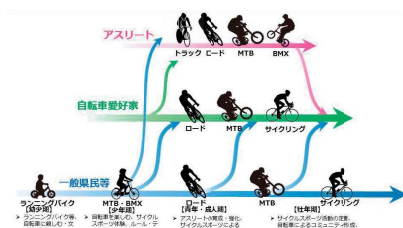
良好な自転車走行空間の形成に向けて、車道に自転車走行位置を明示する「矢羽根型道路標示」の設置など、伊豆半島や浜名湖、東京2020大会ロードレースコースにて自転車走行空間の整備を実施。



## 日本サイクルスポーツセンターを誰もが自転車に親しみ、学び、楽しむ場へ

官民一体となり、東京2020大会後のレガシー創出を進める「自転車競技レガシー推進委員会」は、大会競技会場となった伊豆市の日本サイクルスポーツセンターを「自転車トレーニングヴィレッジ」とする構想をまとめた。コンセプトは「エリート選手から自転車初心者までが利用する施設」。様々な年代の県民をはじめ、国内外の自転車愛好家やアスリートらが集い、自転車に親しみ、学び、楽しむ場だ。サイクリストの憧れを呼ぶ聖地“ふじのくに”の中核施設として、自転車競技人口拡大の拠点となり、自転車文化を醸成し、その文化を国内外に発信する場を目指していく。

日本サイクルスポーツセンター「自転車トレーニングヴィレッジ」構想



# 開催実績

史上初の大会延期、新型コロナウイルスとの闘い、幾多の苦難を乗り越え実現した東京2020大会とは、どんな大会だったのか。静岡県内の開催実績と共に、ここに振り返る。

## 参加アスリート

オリンピック (205NOC+難民選手団) **11,417** 人

パラリンピック (162NPC+難民選手団) **4,403** 人  
※過去最多

### 女性の活躍

オリンピックの女性アスリート比率約49%は過去最高

### 広がる多様性

「LGBTQ」(性的少数派)と公表して参加したアスリートは、**オリンピック182人**(前回リオ大会の3倍)／**パラリンピック28人**(過去最多)

### 世代を超えた活躍

オリンピックの女子スケートボードで**13歳**の日本史上**最年少金メダリスト**が誕生。パラリンピックでは女子自転車ロード競技にて、杉浦佳子選手(静岡県出身)が**日本勢最年長となる50歳で2冠**。

## 競技・種目数

オリンピック **33** 競技 **339** 種目

パラリンピック **22** 競技 **539** 種目

### 「男女混合種目」が倍増

卓球ダブルスなど9種目が新たに加わり、前回のリオ大会から倍増の計18種目に。

### 若者を意識した新競技

オリンピックでは、スケートボードやサーフィン、自転車(BMX)などが加わった。

## 日本代表選手団の活躍

オリンピック **27** 金メダル **14** 銀メダル **17** 銅メダル **58** 合計

過去最高の58個のメダルを獲得(前回リオ大会41個)(うち静岡県ゆかりの選手 金3・銀3・銅3)

パラリンピック **13** 金メダル **15** 銀メダル **23** 銅メダル **51** 合計

過去**2番目**の51個のメダルを獲得(前回リオ大会24個)(うち静岡県ゆかりの選手 金6・銀3・銅4)

## 東京2020オリンピック競技大会静岡県開催 観客数

開催日	7月24日	7月25日	7月26日	7月27日	7月28日	8月2日	8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日	合計
場所	富士スピードウェイ	伊豆MTBコース	富士スピードウェイ	伊豆ヘドルーム									
種別	ロード	マウンテンバイク		ロード	トラック								
競技種目(決勝)	男子ロードレース	女子ロードレース	男子クロスカンтриー	女子クロスカンтриー	男女タイムトライアル	女子チームスプリント	女子チームパーシュート	男子チームパーシュート	男子チームスプリント	女子ケリン	女子マディソン	男子マディソン	女子スプリント
会場収容定員	22,000	22,000	11,500	11,500	22,000	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	114,200
観客上限	10,000	10,000	5,750	5,750	10,000	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	54,100
観客数	4,500	2,300	3,400	2,900	2,600	600	500	600	800	700	800	900	20,600

※パラリンピック競技大会については、無観客開催

## 東京2020オリンピック聖火リレー静岡県内実施実績

区分	1日目(6/23)	2日目(6/24)	3日目(6/25)	計
走行ランナー数(うち本県選出分)	96人(31)	87人(20)	91人(24)	274人(75)
沿道観覧客	約39,000人	約41,000人	約22,000人	約102,000人
セレブレーション参加者	約450人(駿府城公園)	約370人(プラサヴェルデ)	約300人(富士山本宮浅間大社)	約1,120人
走行距離	17.8km	16.4km	17.4km	51.6km

※聖火リレーボランティア:3日間計約2,300人

## 東京2020パラリンピック聖火リレー静岡県内実施実績

区分	聖火リレー					聖火セレモニー	
	熱海	静岡	御前崎・菊川	浜松	計	集火式	出立式
走行ランナー数(うち本県選出分)	25人(8)	25人(14)	68人(23)	9人 (3)	127人(48)	—	—
走行距離	0.8km	0.8km	4.1km	0.6km	6.3km	—	—
沿道観覧客	—	—	約900人	—	約900人	—	—
会場での観覧者(ランナー家族等)	39人	38人	—	15人	92人	—	約100人

※聖火リレーボランティア:計約280人

※このほか、聖火リレーを実施しない10町において聖火ピット(ランタンを公共施設・社会福祉施設等へ届け、展示)が実施された。